



HASEKO Corporation

環境・社会報告書 2010



目次	1
ごあいさつ	2
環境・社会報告書作成基本事項、会社概要	3
環境活動報告	
1. 経営の基本方針、環境方針	4
2. 環境マネジメントシステム	
●環境マネジメントシステム管理体制	5
●環境マネジメントシステムの状況	5
●環境法規制の遵守状況	5
●2009年度環境目的・目標／結果及び2010年度計画	6
3. 設計の取り組み	8
4. 施工の取り組み	12
5. オフィスの取り組み	19
6. 研究・技術開発の取り組み	20
7. マテリアルフロー	24
8. 環境会計	25
コーポレート・ガバナンス	27
コンプライアンス及びリスク管理体制	28
個人情報保護	29
コミュニケーション・社会貢献・外部表彰	30

当社は、お客様本位の事業活動を通じて社会に貢献し、信頼を得ることを経営の基本方針としております。1969年、芦屋に自社施工の第一号マンションを竣工して以来、累計で49万戸以上のマンションを建設してまいりました。これは、日本の分譲マンションストックの約1割に相当します。マンションという住まいの形態は、今や、世の中に普及・定着してきておりますが、当社の事業活動もその役割の一端を果たしてきたものと自負しております。

近年、住まいに対する人々の価値観は、「良いものを作って、きちんと手入れをして、長く大切に使う」というストック重視へと転換しつつあります。私どもは、従来から維持・管理のしやすいマンション作りを標榜しており、優良なストックを供給するための技術やサービスの開発に努めてまいりました。これまでのノウハウをもとに、現在、国土交通省の「長期優良住宅」の認定を取得した「ブランシエラ浦和」および「ブランシエラ吹田片山公園」を建設しております。これらのマンションは、丈夫で長持ちさせるための耐久性・耐震性や、設備配管等のメンテナンス・更新性への配慮のほか、居住者のライフスタイルやニーズの変化に柔軟に対応できる可変性、住宅の価値を維持させるシステムと高水準のアフターサービスを備えています。

今後、当社が設計・施工するマンションについては、当社グループが蓄積したノウハウに基づいた当社ならではの「ロングクオリティマンション」として、資源やエネルギーの効率化、環境負荷の低減に資する長寿命化を実現してまいります。また、自然エネルギーを利用し、CO₂の排出量を削減するマンションの開発も本格化してまいります。

本年4月より「グループ環境推進委員会」を設置し、当社グループ全体として環境への取り組みをさらに積極化していくこととなりました。建設廃棄物の分別・リサイクルの推進をはじめ、地球環境に配慮した資材の採用や緑化計画などの設計面での取り組み、日常の企業活動でのクールビズ活動や消灯、コピー用紙の削減・リサイクルなど、地道な取り組みも継続して行っております。さらに、当社グループ会社が管理しておりますマンションにおいては「打ち水大作戦」「ペットボトルのキャップ回収運動」などの取り組みも行い、住民の皆様にはご好評をいただいております。

本報告書では、2009年度における当社の企業活動の中で実施した、地球環境や社会への貢献の取り組みをまとめています。「住まい」という社会資本をつくる責任の重みを痛感し、より一層の信頼を得る企業となるために微力を尽くしておりますことをご理解いただければ幸いです。今後とも、皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2010年9月

株式会社 長谷エコーポレーション

代表取締役社長

大栗育夫



環境・社会報告書作成基本事項

- ・対象組織 : 株式会社 長谷エコーポレーション
- ・対象期間 : 2009年度(2009年4月1日～2010年3月31日)
但し、一部対象期間後の情報も含めています。
- ・対象分野 : 対象組織の環境・社会活動について掲載しました。
但し、一部グループ会社の活動も、注記の上掲載しています。
- ・作成指針 : 環境省の環境報告ガイドライン(2007年版)を参考にして作成しています。
ガイドラインの内容全てを網羅できてはおりませんが、当社の現状での環境・社会への取り組みを中心に掲載しています。
- ・作成部署 : 広報IR部、品質・環境対策室

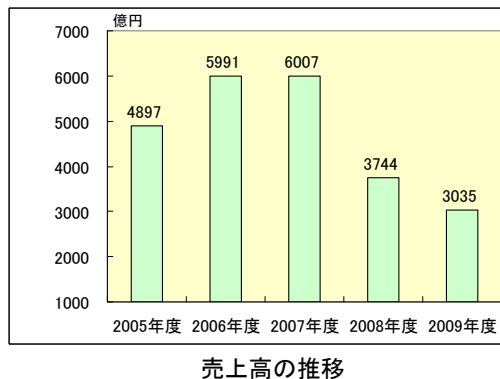
※本環境・社会報告書は、ホームページのみの掲載で、冊子は作成しておりません。

本報告書では下記のアイコンにより、記載項目の分野や内容の目安を示しています。



会社概要

社 名:株式会社 長谷エコーポレーション
創 業:1937(昭和12)年2月11日
設 立:1946(昭和21)年8月22日
資 本 金:575億円(2010年3月31日現在)
売 上 高:3,035億2,800万円(2009年度)
従 業 員 数:2,089人(2010年3月31日現在)
主要営業種目:建設事業、不動産事業、エンジニアリング事業



経営の基本方針

当社の経営の基本方針は次の通りです。

「お客様本位の事業活動を通じて社会に貢献し、信頼を得る」

環境方針

株式会社 長谷エコーポレーション 環境方針

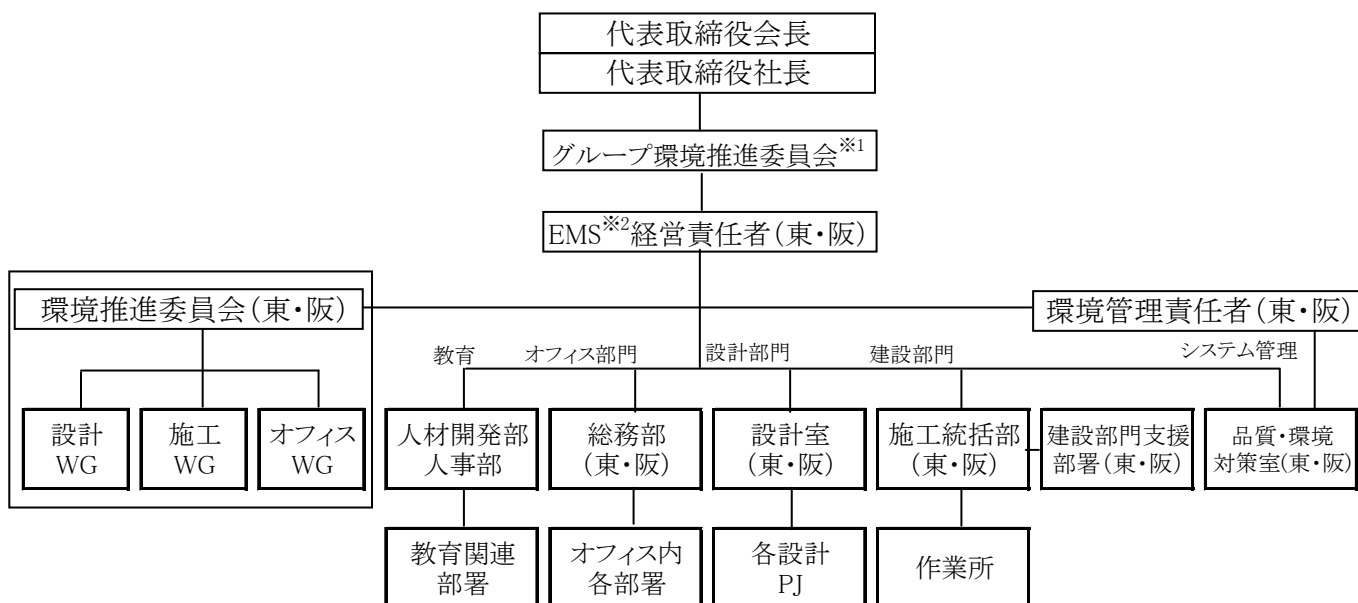
長谷エコーポレーションは都市と人間の最適な環境を創造することを社会使命としてきました。そして、真に豊かな環境創造とは、地球環境を保全し持続的発展が可能な社会を実現した上でこそ成し遂げられると考えています。

この認識に基づき、以下を環境方針として掲げ、よりよい地球環境の保全ならびに改善を目指して活動します。

1. 環境保全活動を推進していくための環境マネジメントシステムを確立、運用、継続的な改善及び汚染の予防を図ります。
2. 環境に関する法規、協定などを遵守するとともに、必要に応じ自主基準を策定し実行します。
3. 事業活動の環境影響を評価し、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的及び目標を設定、また、環境目的及び目標は定期的にレビューを行います。
4. 環境保全活動を推進するために、以下の項目に注力し取り組みます。
 - ①建設廃棄物の削減とリサイクル及び周辺環境に配慮した施工
 - ②環境に配慮した設計の提案
 - ③用紙の使用削減・リサイクル、廃棄物分別及び省エネルギーを配慮したオフィス業務
5. 当社全役職員及び当社で従事する全ての人々に対して環境方針の周知を図ると共に、協力会社に本方針の周知と協力を要請します。
6. 環境方針の開示を社外から要求された場合は公開します。

環境活動報告 - 2. 環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステム管理体制



※1: 2010年4月発足。長谷エグループにおける、環境対応方針の策定・運用を行う。

※2: 環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステムの状況

■ISO14001認証取得の経緯

2001年7月に関西地区、10月に東京地区でISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得しました。2004年に第1回目、2007年に第2回目、2010年には関西地区で第3回目の再認証登録を完了し、環境管理活動を継続して展開しています。

■取り組み

環境保全活動を進めるにあたり、環境方針を策定、各部門は環境方針を受け環境目的・目標を定め推進しています。

■継続的な改善

環境マネジメントシステムが規格要求事項を含め当社の取り決めに適合しているか、又適切に実施され維持されているかを内部監査及び外部審査によりチェックし、その結果を踏まえ、見直しを行い継続的な改善を図っています。

2009年度の外部審査受審日及び指摘件数は以下の通りです。

	登録日 更新日	外部審査受審日	外部審査指摘件数
関西地区	2001.7.1 2010.7.1	2009.6.23	軽微な不適合2件 観察事項2件
		2010.3.16~17(再認証)	観察事項1件
東京地区	2001.10.1 2007.10.1	2009.7.28	0件

環境法規制の遵守状況

2009年度は、工事に伴う環境に関する法違反はありません。

環境活動報告 — 2. 環境マネジメントシステム

2009年度環境目的・目標／結果及び2010年度計画

東京地区の2009年度環境目的・目標と結果及び2010年度の計画は以下の通りです。

評価凡例

○：目標達成

△：ほぼ目標達成

×：目標未達成

<東京地区 2009年度環境目的・目標と結果>

部門	環境目的	2009年度環境目標	2009年度目標値	2009年度結果	2009年度評価
設計部門	環境配慮設計の提案	環境配慮チェックシートの活用	採用件数÷提案件数 ≥93%	96.5%	○
施工部門	建設廃棄物の削減	建設廃棄物の削減	混合廃棄物 14kg/m ² 以下	11.1kg/m ²	○
		混合廃棄物のリサイクル化	リサイクル率 63%	77.6%	○
	地球温暖化の防止	CO ₂ 排出量の削減	現状把握	18,141t-CO ₂	—
オフィス部門	省エネルギーの推進	電力使用量の削減	2006～2008年 平均値以下	4.8%	○
	紙資源有効利用	コピー用紙使用量の削減	2008年 実績値以下	6.2%	○
		リサイクルボックス 活用推進	紙類廃棄物に占める 使用率54%	59.2%	○
	資源リサイクル推進	リサイクル体制の推進	文房具グリーン購入率 72%	84.2%	○
	環境汚染防止	ゴミの総廃棄量の削減	2008年比 総廃棄量1%削減	14.3%	○

<東京地区 2010年度計画>

部門	環境目的	2010年度環境目標	2010年度目標値
設計部門	環境配慮設計の提案	環境配慮チェックシートの活用	採用件数÷提案件数≥93%
施工部門	建設廃棄物の削減	建設廃棄物の削減	混合廃棄物14kg/m ² 以下
		混合廃棄物のリサイクル化	リサイクル率65%
	地球温暖化の防止	CO ₂ 排出量の削減	発生原単位13.8t-CO ₂ /億円以下 (工事施工高当たり)
オフィス部門	省エネルギーの推進	電力使用量の削減	2009年実績値1%削減
	紙資源有効利用	コピー用紙使用量の削減	2007～2009年平均値以下
		リサイクルボックス活用推進	紙類廃棄物に占める使用率57%
	資源リサイクル推進	リサイクル体制の推進	文房具グリーン購入率80%
	環境汚染防止	ゴミの総廃棄量の削減	2007～2009年平均値以下

環境活動報告 — 2. 環境マネジメントシステム

2009年度環境目的・目標／結果及び2010年度計画

関西地区の2009年度環境目的・目標と結果及び2010年度の計画は以下の通りです。

評価凡例

○：目標達成

△：ほぼ目標達成

×：目標未達成

<関西地区 2009年度環境目的・目標と結果>

部門	環境目的	2009年度環境目標	2009年度目標値	2009年度結果	2009年度評価
設計部門	環境配慮設計の提案	①地球環境②地域環境③室内環境の改善設計提案 目標78点	78点 (設計終了時)	79点以上 (設計終了物件)	○
施工部門	建設廃棄物の削減	建設副産物排出量の削減	排出量削減 10.5%以上	10.6%	○
	建設廃棄物のリサイクル促進	建設副産物のリサイクル率の向上	リサイクル率 45.0%以上	46.1%	○
	木質系材料使用の抑制	在来型枠使用量の削減	在来型枠材削減率 23.5%以上	24.6%	○
オフィス部門	省エネルギーの推進	電力使用量の削減	2008年度 電力消費量以下	2.4%	○
	資源有効利用	コピー用紙使用量の削減	2008年度コピー用紙 使用量以下	4.4%	○
		エコ商品購入の推進	購入率 62.7%以上	64.7%	○
	廃棄物のリサイクル推進	廃棄物量削減	リサイクル率93.3%	92.0%	△

<関西地区 2010年度計画>

部門	環境目的	2010年度環境目標	2010年度目標値
設計部門	環境配慮設計の提案	環境配慮チェックシートの活用	採用件数÷提案件数≥93%
施工部門	建設廃棄物の削減	建設廃棄物の削減	混合廃棄物14kg/m ² 以下
	建設廃棄物のリサイクル促進	混合廃棄物のリサイクル化	リサイクル率65%
	地球温暖化の防止 (新項目※)	CO ₂ 排出量の削減	発生原単位13.8t-CO ₂ /億円以下 (工事施工高当たり)
オフィス部門	省エネルギーの推進	電力使用量の削減	2009年度電力消費量1%削減
	資源有効利用	コピー用紙使用量の削減	2009年度コピー用紙使用量以下
		グリーン購入の推進	文房具購入率70.0%以上
	廃棄物のリサイクル推進	廃棄物量削減	リサイクル率93.3%以上

※「地球温暖化の防止」は、新たに2010年度計画より環境目的・目標に掲げ、CO₂排出量の削減を目指します。

豊かな住環境創りの事例



■ グランドメゾン東戸塚(横浜市戸塚区前田町)

「グランドメゾン東戸塚」はJR横須賀線・東戸塚駅から徒歩10分にある、約5.3haの小高い丘につくられた743戸のマンションです。駅周辺は、1960年代から始まった大規模開発により住宅地として開発が進みましたが、本計画地は企業の研究施設だったため、敷地内には豊かな既存樹林や立派な桜並木などのまとまった緑地が残っていました。

本計画は、こうした豊かな自然を生かしながら、敷地内に里山の風景を再生し、住まいと豊かな自然環境を調和させる多様な提案を行いました。都市にありながらも自然の恩恵を五感で感じ、風景や自然環境を守り次世代に受け継ぐ心が地域住民や居住者間のコミュニケーションの中で育まれるような街創りを目指しています。

建物間の駐車場は地形の高低差を利用しながら、屋上部を屋上庭園とすることで緑の連続性を保ちつつ、歩行者動線の分断を避けるよう計画し、共用部と屋上庭園が一体的となるよう配慮しました。

本計画は上記の環境づくりが評価され、第29回緑の都市賞 緑の地域づくり部門 国土交通大臣賞を受賞しました。



既存の地形や樹木を活かした住環境



既存の桜を活かしたアプローチ

■ サウスオールシティ(堺市西区鳳南町)

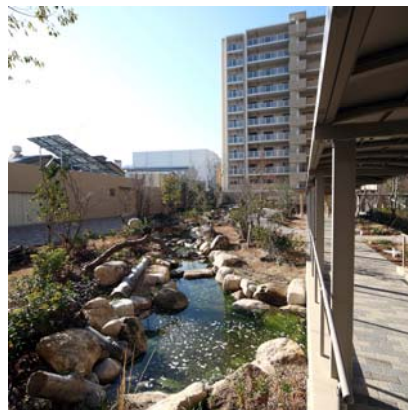
「サウスオールシティ」は、都市再生緊急整備地域「堺鳳駅南地域」に位置する791戸のマンションです。大規模工場跡地の土地利用変換により、大規模商業施設・防災公園・保育園・フィットネス施設等が建設され、利便性の高い街へと生まれ変わりました。地域に開放された提供公園、広々とした芝生広場のある自主管理公園ビオトープを計画に盛り込んだ中庭空間等、緑豊かな住環境の整備を心がけました。



ビオトープを盛り込んだ中庭空間

■ グランドメゾン西九条BIO(大阪市此花区西九条)

「グランドメゾン西九条BIO」は、都市の中でエコな生活を意識できる環境配慮型のマンションです。ビオトープを設置した中庭は、雑木林のように多種の樹木を混植しています。水辺に生きる生物から木々に集まる野鳥まで、暮らしの中で多様な生き物を観察できる場所です。また、ソーラー発電システム・LED照明器具・透水性舗装の採用・雨水や散水のせせらぎへの再利用など、環境負荷の低減を図る仕組みを随所に取り入れています。



多様な生き物を観察できるビオトープ

屋上緑化・壁面緑化の事例



■フォレシウム(川崎市川崎区中瀬)

「フォレシウム(FORESEUM)」は、多摩川沿い再開発エリアの3haを超える敷地に誕生した、総戸数777戸のマンションです。FOREST(森)とMUSEUM(ミュージアム)とを重ね合わせ、豊かな緑と都会的な洗練さを融合した新しい風景を創出しました。建物に囲まれた大きな2つの中庭をつないだ共用棟の屋上と自走式駐車場の壁面を緑化して、緑のボリュームアップと連続性を実現しています。

屋上緑化は低木と数種類の地被植物でパターン状に構成し、上階から眺めた時の美しさ・楽しさも演出しています。壁面緑化は、延長60mを高さ3mごとに4層に分けて特殊なワイヤーを格子状に設置し、ツタを垂れ下げています。建物の完成に合わせてあらかじめ用意した長尺物のツタを植栽することで、竣工当初から駐車場を柔らかな緑のカーテンで覆うことができました。

「緑・まちなみ」「周囲への配慮」「省エネルギー」の項目で特に高く評価され、「CASBEE川崎」Aランク相当の総合評価を獲得しています。



フォレシウムガーデンと屋上緑化



ギャラリーガーデンと壁面緑化

■プライド東陽町(江東区南砂)

「プライド東陽町」は、運河を埋め立てて緑道化した仙台堀川公園に接しており、緑を敷地内に取り込んだイメージで緑化計画を検討しました。区の緑化基準を遵守しながら、地上部の緑地の他、屋上部にも緑を積極的に取り入れています。セットバックした場所を屋上緑化することで、上階から見下ろした際に通常なら無機質になりがちな屋上面を豊かな表情としています。

屋上緑化資材はメンテナンス性と積載荷重を考慮し、セダム※薄層緑化システムを約800㎡採用しており、花が咲く季節には色鮮やかな風景を創出しています。高密度な都市環境にあって、緑道と連続した地上部の緑化と屋上緑化はヒートアイランド現象の改善への貢献が期待できます。



専用住戸上のセダム植栽



回廊周り緑化

※セダム＝乾燥に強い多肉植物。マンネングサ属。屋上緑化に適した植物として利用されています。

自然エネルギーの活用事例



- フォレシウム(川崎市川崎区中瀬)
- オーベルグランディオおおたかの森(流山市駒木)
- プラウド東陽町(江東区南砂)

地球温暖化をはじめとする環境問題への取り組みとして、クリーンな自然エネルギーが注目されています。当社では、太陽光発電設備や省エネ・長寿命・高効率な照明として普及しつつあるLED照明の採用を推進しています。「フォレシウム」では、エントランス上部に設置したソーラーパネルと風力で発電した電力を蓄電池に蓄え、夜間消費電力の少ないLED庭園灯に供給しています。

「オーベルグランディオおおたかの森」でも、ソーラーパネルと風力発電設備、外灯が一体となったハイブリッド照明を設置するなど、環境配慮に取り組んでいます。また「プラウド東陽町」では、エントランス周りの木のライトアップ照明や、エントランス壁面を照らすアップライト及び軒下ダウンライトにLED照明を採用し、省エネと共に美しい照明計画を実現しています。

■フォレシウム



太陽光発電設備



風力発電設備



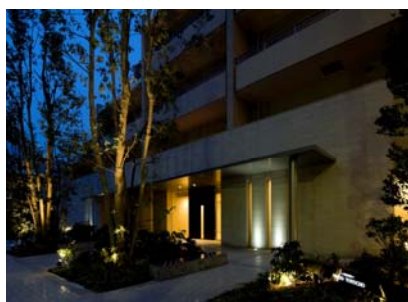
LED庭園灯

■オーベルグランディオおおたかの森

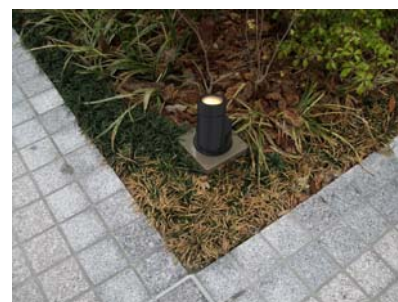


ハイブリッド照明

■プラウド東陽町



LEDアップライト



LEDライトアップ照明

既存樹木の保存事例



■レピア高松(和歌山市西高松)

「レピア高松」は、和歌山大学跡地に計画された市内最大規模の197戸のマンションです。計画地に残されたクスノキを保存することを前提に樹木調査・配棟計画・動線計画を行い、以前と同様の緑豊かな沿道景観を継承した新たなアプローチ空間を実現することができました。既存樹木は街の重要な緑の資産であり、事前に十分な調査を行い、今後も積極的に活用し良好な景観形成に努めていきたいと考えています。



エントランスアプローチ

環境活動報告 — 3. 設計の取り組み

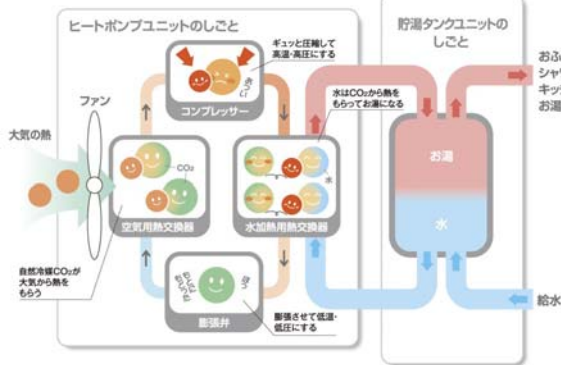
設計部門では、環境保全活動として「環境配慮設計の提案」に取り組んでいます。また、東京都環境配慮設計制度等や各都市のCASBEE、省エネ法にも対応しています。



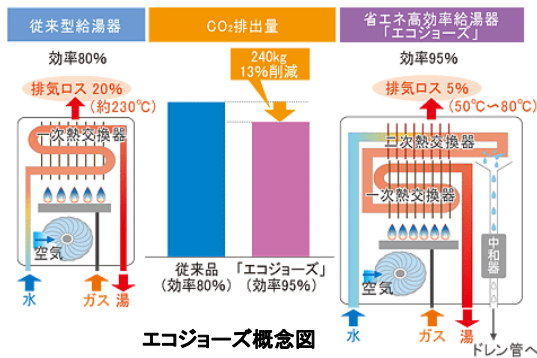
省エネ給湯機器の採用促進

環境保全・配慮という点から、「エコキュート」を採用したオール電化マンションや、従来のガス給湯器よりも熱効率に優れた「エコジョーズ」の採用を推進しています。「エコキュート」は自然冷媒CO₂を採用し、高いCOP*でランニングコストの低減を図り、環境問題としてとりあげられているオゾン層破壊係数もゼロ。地球温暖化係数はフロン系冷媒の約1/1700を実現しています。「エコジョーズ」は従来捨てていた排熱を再利用することにより給湯効率を約80%から約95%に向上させ、CO₂排出量を約13%削減できます。このような環境配慮型機器の採用を提案することで、2009年度竣工戸数ベースでは約56%の採用を行い、環境配慮や省エネルギーに貢献しています。

※COP=Coefficient of Performance、JRA(日本冷凍空調工業会)標準規格の定格条件で運転した時のエネルギー消費効率

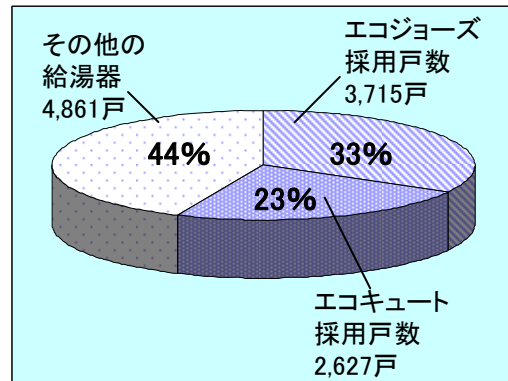


エコキュート概念図



エコジョーズ概念図

『2009年度 環境配慮機器採用の比率 (施工戸数に対する割合)』



2009年度 竣工戸数 11,203戸

ディスポーザシステムの採用促進

ディスポーザシステムは、ゴミの削減や排水汚濁負荷の低減等、環境に配慮したシステムであり、当社では積極的に採用を推進しています。2009年度竣工戸数ベースでは、約70%と高い割合で採用しています。今後も当社ではゴミの減量等、更なる環境負荷低減のため、ディスポーザシステムの採用を推進していきます。

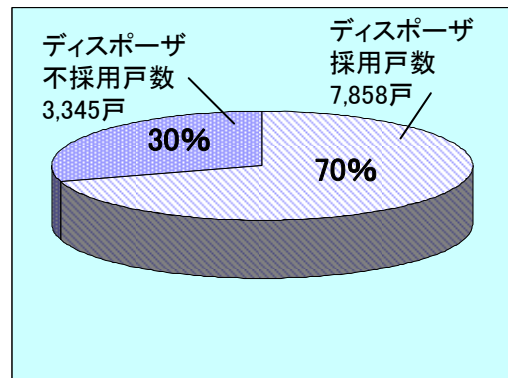


minipo



ランドミルPG

『2009年度ディスポーザ採用の比率 (施工戸数に対する割合)』



2009年度 竣工戸数 11,203戸

環境活動報告 — 4. 施工の取り組み

施工部門では、環境保全活動として、地球温暖化の防止及び建設廃棄物の削減に取り組んでいます。

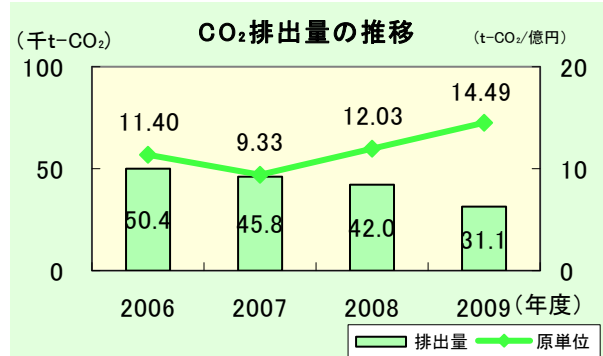
建設廃棄物の削減とリサイクルなど



■CO₂(二酸化炭素)排出量

2009年度はサンプリング作業所として142作業所(新築工事)で調査を行い、施工高当り排出量原単位を求め、これに当該年度の施工高を乗じて総量を算出しました。2009年度のCO₂排出量は、31.1千t-CO₂でした。2008年度と比較して、10.9千t-CO₂(26.0%)減少しました。CO₂排出量原単位は、14.49t-CO₂/億円でした。

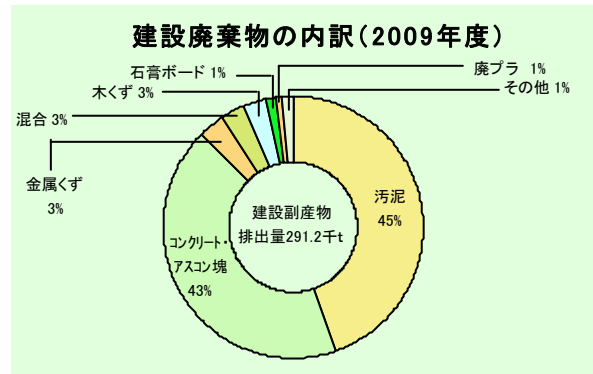
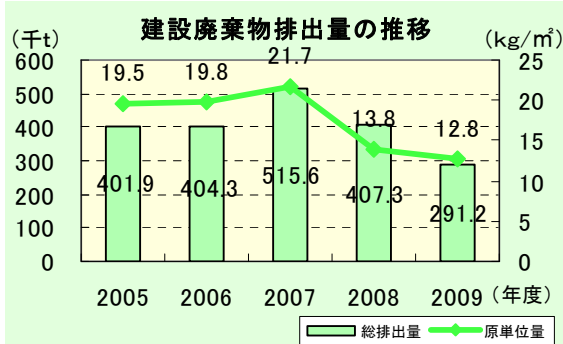
今後も削減活動として、各作業所での省燃費運転講習会開催、アイドリングストップ運転及び建設機械・車両の適正整備の励行等を進めていきます。



※CO₂排出量は、建設3団体「2008年度CO₂排出量調査マニュアル」2008年6月に準じて算定。

■建設廃棄物の処理状況

2009年度の建設廃棄物の排出量は、新築工事から164.2千t(56.4%)、解体工事から127.0千t(43.6%)で合計291.2千tでした。2008年度と比較して116.1千t(28.5%)の削減です。今後も『入れない・出さない・捨てない』の当社廃棄物削減方針の基に、協力業者の分別意識の向上・品目別リサイクルルートの開拓等により、発生抑制や分別・リサイクル活動を行い排出量削減を、推進していきます。

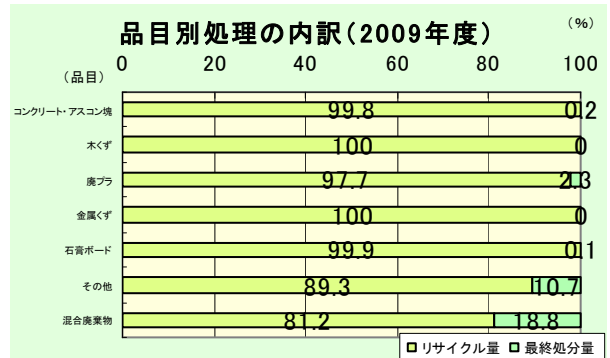
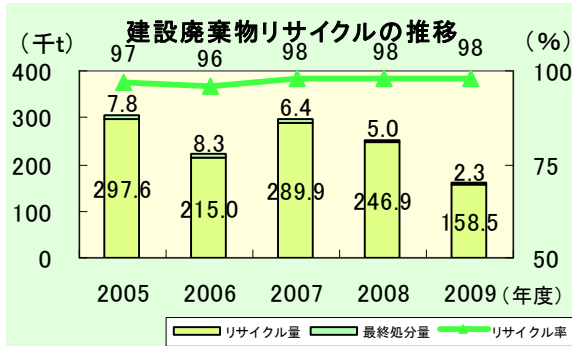


※原単位量は、新築工事対象。

※2008年度より原単位量は、再資源化処理施設(木くず、廃プラ)分を除く。

■建設廃棄物のリサイクル状況

2009年度の建設廃棄物のリサイクル量(汚泥除く)は、新築工事から32.2千t(94.8%)、解体工事から126.3千t(99.5%)で合計158.5千t(98.5%)でした。2008年度と比較して、88.4千t(35.8%)の減少です。解体工事では、冷媒フロン0.3tの回収・破壊処理、アスベスト29.0tを適正に処理・処分しました。今後も、分別・リサイクル活動を更に推進していきます。



グリーン調達取り組み



2009年度のグリーン調達の取り組みは、グリーン調達資材7品目について調査し、数量を把握しました。今後対象品目については、グリーン調達の実績・社会情勢等を考慮して、随時見直し・追加していきます。

品目	単位	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
電炉鋼材(鉄筋)	千t	224	259	260	160	149
高炉セメント生コン	千m ³	458	380	346	249	241
ダンフスマ	千枚	73	117	112	71	40
再生利用タイル	千m ²	707	664	678	460	248
再生石膏ボード	千m ²	5,348	5,775	5,348	3,788	3,311
パーティクル材(二重床)	千m ²	—	105	101	143	65
スチレン素材(壁下地パッキン)	m ³	—	—	—	172	192

※パーティクル材(二重床)は2006年度より、及びスチレン素材(壁下地パッキン)は、2008年度より追加。

電子Manifestの導入

作業所で発生する産業廃棄物の管理を新築工事全作業所で100%電子Manifestを導入し運用しています。また、解体工事においても、電子Manifestを約90%導入し運用しています。



3.乗務員によるManifest情報入力

廃棄物の積み込み終了後、ドライバーがManifest情報を入力します。



4.現場担当者による承認

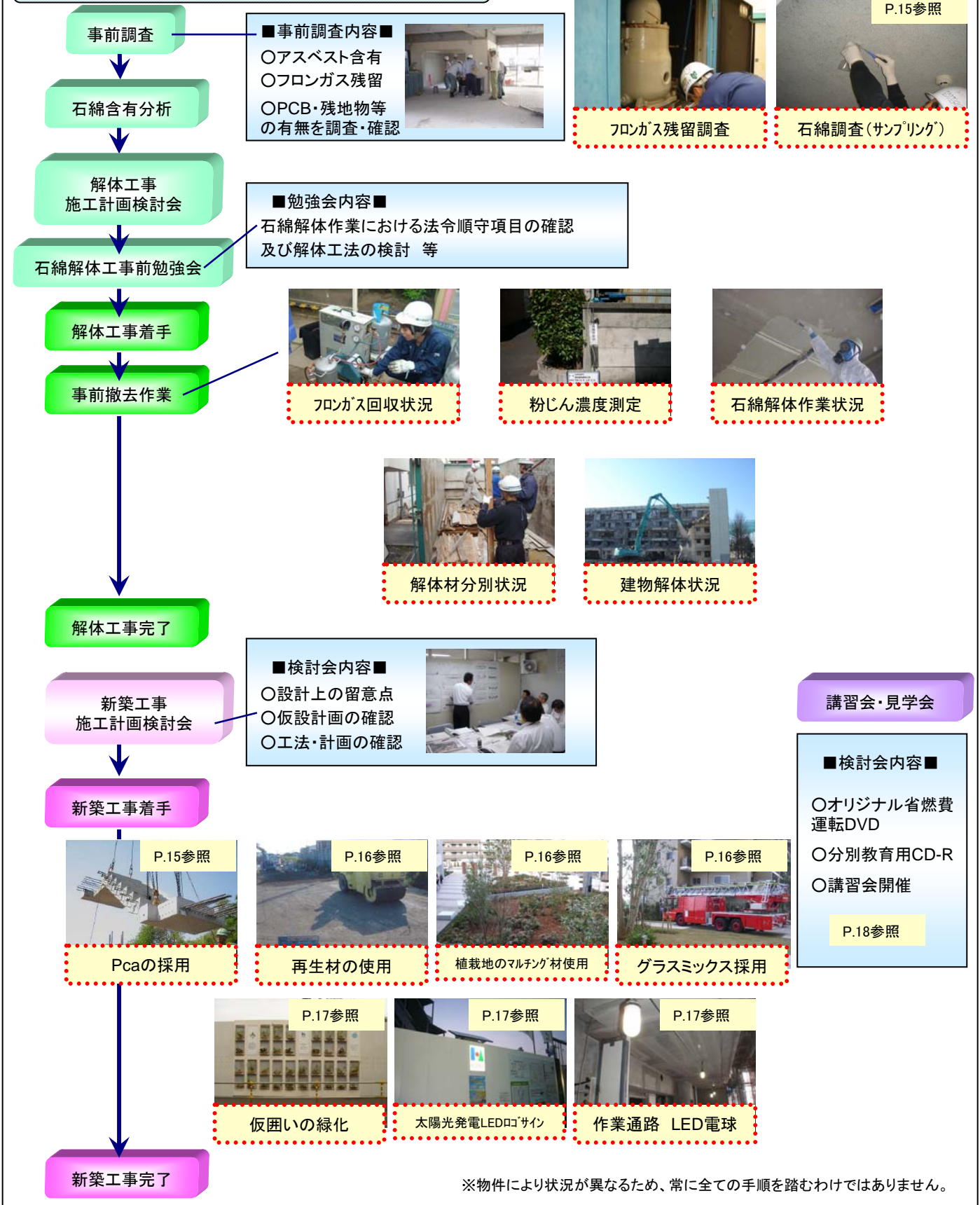
作業所の職員の方に内容をご確認いただき、「承認」して頂くことでManifestを発行します。

承認パスワードを入力



環境活動報告 — 4. 施工の取り組み

解体・新築工事の環境活動の流れ



※物件により状況が異なるため、常に全ての手順を踏むわけではありません。

解体・新築工事での取り組み

■ 解体工事の事前調査



解体工事では、石綿、フロン、PCB等の有害物質が含まれていることがあります。当社は解体工事の事前調査にあたり、各専門業者立会いのもと、有害物質の有無を把握し、適正処理を行っています。2009年度は、80件の事前調査を実施しました。



石綿サンプリング調査

■ プレキャストコンクリート(Pca)の採用



工業製品であるプレキャストコンクリート(Pca)を採用することで、施工現場での型枠の使用量が減るため、熱帯材の削減につながります。



段床Pca階段

■ テストピースの小型化



強度管理用テストピース(100φ×H200)に使用するコンクリートは、当社だけでも年間200m³以上となり、試験後は廃棄されます。テストピースを小型化(80φ×H160)することで、容積が半減するため省資源化と廃棄物量の削減が図れます。当社では、テストピースの小型化(80φ×H160)に関する建築技術審査証明を取得しており、廃棄物量の削減に取り組んでいます。



小型のテストピース(左)と従来のもの(右)

■ 非構造壁へのALC※採用



非構造壁のALC化を従来より促進しており、自社設計物件では標準設定としています。平成20年度長期優良住宅先導的モデル事業に採択された新技術「ALC無溶接工法」(特許出願中)の採用促進も合わせ、さらにALC化を進めます。型枠の使用量が減るため、熱帯材使用の削減が図れます。



ALC化された非構造壁

※ALC=Autoclaved Lightweight aerated Concrete
(高温高圧蒸気養生された軽量気泡コンクリート)

外構工事での取り組み

■再生材使用の促進



外構工事で使用する材料への、再生材使用を促進しています。舗装材料として再生アスファルト合材や再生砕石（路盤材）を、またインターロッキングブロックや平板などには再生コンクリート二次製品使用を推進しています。



路盤に再生砕石を使用

■植栽地のマルチング材使用



植栽地表面をマルチング材で覆うことにより、植栽地表面の飛散、雑草の生育抑制、保温・保湿による植物生育の促進を図っています。また、マルチング材には間伐材を使用しています。



植栽地表面にマルチング材を使用

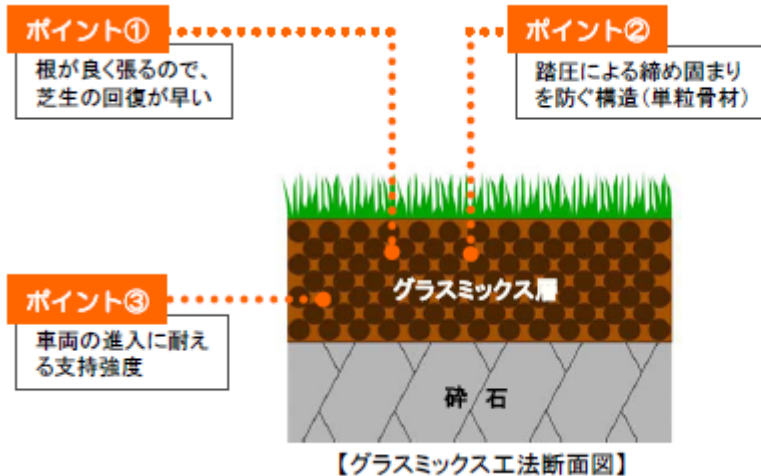
■芝生用耐圧基盤土壌材(グラスミックス)の採用



従来、車両の進入を伴う芝生地にはプラスチック製の補強材を使用して芝生を保護していましたが、将来的な芝枯れの懸念がありました。また、表面に露出する突起のため歩行感も悪く、施工性もよくありませんでした。そこで単粒の火山砂利による芝生用耐圧基盤土壌材(グラスミックス)を使用し、芝枯れの防止・施工性の向上・石油製品使用の抑制を図っています。



消防車活動用地の芝生に採用



【グラスミックスの品質】
 ※設計CBR値 20以上
 ※pH5.0~7.5
 ※透水係数 1×10^{-5} m/sec以上
 ※養分性 NPKの主養分を中心に配合

東邦レオ(株) カタログより抜粋

建設作業所での取り組み

■ 仮囲いの緑化



仮囲い壁面に緑化を行い、親しみやすい工事現場のイメージづくりを行っています。ヒートアイランド現象の低減、緑による憩いという雰囲気作りなど、周辺への環境改善に努めています。



■ 太陽光発電によるLEDロゴサインの採用



建設作業所での環境改善活動の一環として、2009年7月より、仮囲いに太陽光発電によるLEDロゴサインを採用しています。2010年3月末現在、21作業所で採用しており、従来の電球と比較して全体で年間433.8kg-CO₂が削減されます(晴天率60%の場合)。



■ LED照明の採用



作業所内の事務所・仮設通路・仮設階段の照明に、環境負荷の少ないLED照明の導入を進めています。これまでは蛍光灯・白熱球を使用していましたが、例えば白熱球→LED電球に変えた場合、CO₂の排出量は約1/8に削減され、寿命は約20倍になります。



作業通路 LED電球

■ 「作業所マイ箸キャンペーン」実施



日本では年間約250億膳の割り箸が消費されており、その約90%以上を輸入に頼っているといわれています。この輸入割り箸が海外での森林破壊につながっているという指摘があります。このような状況を踏まえ、今年度より現場の売店等で使用していた割り箸をやめる活動を展開しています。今年度の割り箸削減量501,672膳で、これは樹齢50年の杉の木約29本分に相当します。またCO₂に換算すると、4.69t-CO₂削減となります(割り箸を焼却した場合に排出されるCO₂の量で計算)。



キャンペーンポスター

施工部門における教育の取り組み



■ 省燃費運転講習会

協力業者及び重機メーカーの協力により、現場で「油圧ショベル実体験講習会」を実施しました。この「油圧ショベル実体験講習会」で検証した、省燃費運転による燃料削減結果をもとに、当社オリジナルの省燃費運転DVDを製作しました。このDVDを活用して、新築工事作業所を対象にCO₂排出量削減の施策として、杭工事、山留め工事、土工事の「省燃費運転講習会」を継続実施しています。2009年度は107回実施し、延べ2,063名が受講しました。今後、更に内容の充実、省燃費運転の促進を図り、CO₂削減に取り組んでいきます。



省燃費運転講習会



オリジナルDVD

■ 産業廃棄物分別講習会



廃棄物の減量化とリサイクルの推進を図る為、2008年に当社オリジナル分別教育用CD-Rを作成し、講習会を実施しています。施工中に3回(①躯体工事、②仕上げ工事着手、③内外装仕上げ工事)実施しています。2009年度は、134回実施し延べ11,190名の作業員が受講しました。



分別講習会開催

■ 新入社員への教育



新入社員を対象として、作業所での廃棄物分別管理の取組みについて、分別ヤードなどを見学しました。また、産業廃棄物中間処理施設で、廃棄物が資源にリサイクルされる過程を見学し、資源の大切さやリサイクルの重要性を学びました。



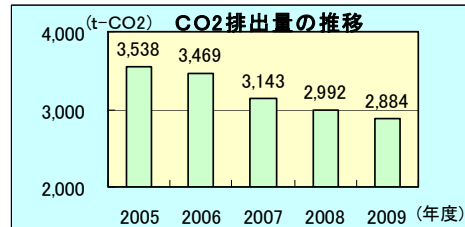
作業所分別ヤードの見学

環境活動報告 — 5. オフィスの取り組み

オフィス(東京芝本社ビル・大阪平野町ビル)では、環境保全活動として、省エネルギーの推進、紙資源の有効活用、資源リサイクル推進、環境汚染防止に取り組んでいます。

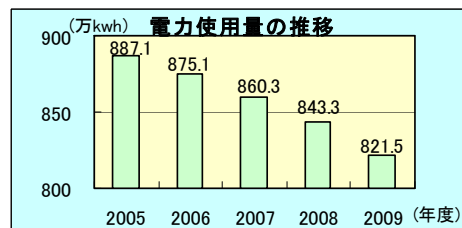
CO₂排出量

2009年度のオフィスにおける電力及び社有車の使用によるCO₂排出量は2,884t-CO₂でした。これは、2008年度と比較して108t-CO₂(3.6%)の削減です。今後もCO₂排出量削減のため、電力の省エネと社有車の燃費向上を推進していきます。



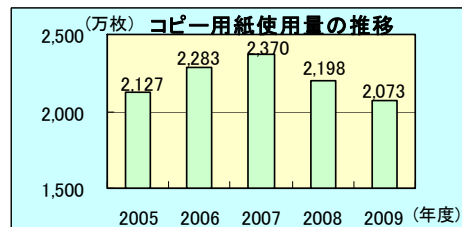
省エネルギーの推進(電力使用量の削減)

2009年度の電力使用量は821.5万kwhでした。これは2008年度と比較して、21.8万kwh(2.6%)の削減です。当社は今年度より省エネ法の特定事業者指定されており、今後は東京芝本社ビル・大阪平野町ビルの省エネ活動の仕組みを他の拠点でも取り入れ、全社をあげて省エネ活動に取り組めます。



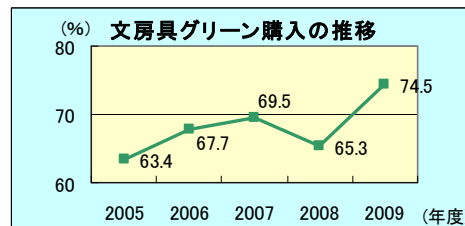
紙資源有効利用(コピー用紙使用量の削減)

2009年度のコピー用紙使用量は2,073万枚でした。これは、2008年度と比較して125万枚(5.7%)の削減です。今後もコピー用紙削減活動として両面コピー、裏面使用、会議資料減量化を推進していきます。



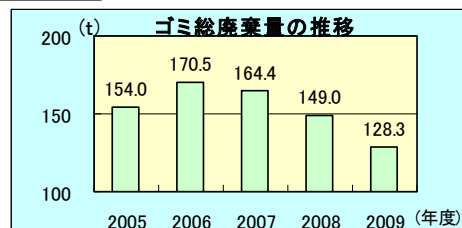
資源リサイクル推進(文房具グリーン購入)

2009年度の文房具グリーン購入率は74.5%でした。これは、2008年度と比較して9.2ポイントの上昇です。2008年度は、コピー用紙含有率偽装の影響でグリーン購入率が一時的に減少しましたが、2009年度は、一転して購入が進み、購入率が上昇しました。



環境汚染防止(ゴミ総廃棄量の削減)

2009年度のゴミ総廃棄量は、128.3tでした。これは、2008年度と比較して、20.7t(13.9%)の削減です。今後もリサイクルボックスを活用し、また、ゴミの分別出しも徹底して、ゴミの減量化に取り組んでいきます。



環境活動報告 — 6. 研究・技術開発の取り組み

研究・技術開発においては、健康で快適な住宅・住環境、地域環境の創造を目指す中で、地球温暖化防止、資源の循環、廃棄物の削減等の環境問題に取り組んでいます。

研究・技術開発の拠点である技術研究所(埼玉県越谷市)では、日本で唯一の実物大の住宅性能試験棟をはじめ、熱環境試験棟、構造材料試験棟などを保有し、集合住宅にかかわる基礎研究から技術開発まで幅広い活動を行っています。近年は、再生エネルギー利用、省CO₂・省エネ、建物の長寿命化といったテーマで、環境技術の研究に注力しています。



技術研究所・住宅性能試験棟



太陽光発電パネル

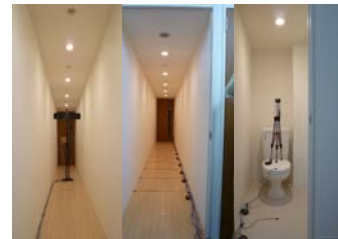
環境負荷低減・省エネルギー関連技術 ①

■省エネ照明の採用促進に向けた研究

分譲マンションでは、専用部に設置される照明器具(主にダウンライト)は、住戸の全照明負荷の約半分を占めます※。これらに省エネ照明を採用することを目指し、昨年度、技術研究所でLED照明の実物大モデルでの照度分布の測定や被験者試験を行いました。その結果、LED電球を利用できるランプ交換型ダウンライトを採用した場合でも、従前の照明と明るさの感じ方が同等であることを確認しました。さらに省エネ効果や更新性への配慮、効率的な照明配置の検討により、LED化による効果を最大限に引き出す為の調査・研究を行っています。当社オリジナルの評価基準に基づき各社の製品評価を行い、マンション専用部に適した省エネ効果の高い照明の普及を図ります。

※間取りにより、取付け個数は増減します。

LED照度測定



被験者試験風景

■「戸別太陽光発電」搭載マンションの研究

集合住宅の屋上に太陽光発電パネルを設置して、発電した電気を各戸に供給するシステムです。供給された電力は家庭内で使用する電力の一部に充当される他、余剰分は電力会社へ売電が可能なので、HEMS(ホームエネルギー・マネジメントシステム)と組み合わせることで、より大きな電気代削減及び、CO₂排出量削減が可能となります。

このシステムの実導入に向けて、技術研究所・住宅性能試験棟で分譲マンションにおける発電の効率化、各住戸間の公平性、将来の更新性などを調査・研究しています。これらの調査・研究成果を活用し、省CO₂効果の高い創エネルギーシステムの導入促進を図って参ります。



「戸別太陽光発電」搭載マンションの検証

環境負荷低減・省エネルギー関連技術 ②

■ 植栽計画時のCO₂削減性能に関する研究(樹木の環境配慮性能の数値化)



植栽計画による環境配慮性能の数値化を目的として「緑化によるCO₂削減量算出プログラム」を開発しました。マンションの計画に当たっては、極力多くの植栽を計画するように努めていますが、中高木の樹木は、光合成により空気中のCO₂を吸収し、幹に固定することによりCO₂削減を行うことができます。

今回のプログラム開発により、樹木によるCO₂削減量を簡易に算出・計画検討ができるようになりました。

今後は当社設計の全案件で採用し、環境に配慮したマンションづくりを進めていきます。



1. 「植栽表」からデータをコピー 2. 「計算」ボタンを押す 3. 案件名を記入

計算

CO₂削減量算出シート

案件名: ●●●●新築計画

総CO ₂ 固定量 KgCO ₂ /年	83.59
--	-------

名称	形状寸法			数量	CO ₂ 固定量 KgCO ₂ /本	CO ₂ 固定量 KgCO ₂
	H	C	W			
サルスベリ	3.0	0.18	1.2	4	1.19	4.76
シマトネリコ	3.0	株立		3	1.19	3.57
シラカン	5.5	株立		5	7.37	36.85
シラカン	3.5	株立		3	1.19	3.57
ソヨゴ	4.0	株立		1	4.13	4.13
ニオイヒバ	1.8		0.5	127	0.12	15.24
マンサク	3.0	0.15		1	1.19	1.19
マンサク	3.0	0.15		4	1.19	4.76
モチノキ	3.0	0.15	0.6	8	1.19	9.52

プログラム出力イメージ



■ 洗濯機用防水パン・洗浄便座の省梱包の開発展開(廃棄物の削減に対応する技術)

現在、洗濯機用防水パンの梱包材はダンボールで、1枚の洗濯機パンに対し、1梱包としています。これを4枚まとめて梱包し、更にダンボールの使用量が少ない梱包形態とすることにより、ダンボールの使用量を削減しました。すでに採用を開始しています。

また洗浄便座についても、1梱包内に複数製品を収納することで、ダンボールの使用量の削減を実現し、採用促進しています。



変更前(洗濯機パン1枚/1梱包)



変更後(洗濯機パン4枚/1梱包)

長寿命化関連技術 ①



■ 国土交通省 平成20年度(第1回)「長期優良住宅先導的モデル事業」に採択された技術の普及・展開活動

国土交通省が進めている長期優良住宅先導的モデル事業は、「いいものをつくって、きちんと手入れして、長く大切に使う」というストック社会のあり方について、具体的内容をモデルの形で広く国民に提示し、技術の進展に資するとともに普及啓発を図ることを目的としています。

当社のプロジェクトでは、「ブランシエラ浦和」「ブランシエラ吹田片山公園」がモデル事業として採択されました。モデルルームや現地住戸内の技術展示などにより、購入者やデベロッパー・ゼネコンなど業界関係者他へ普及・展開活動を実施するとともに、実施に伴う技術検証を進めています。



「ブランシエラ浦和」技術展示の説明会



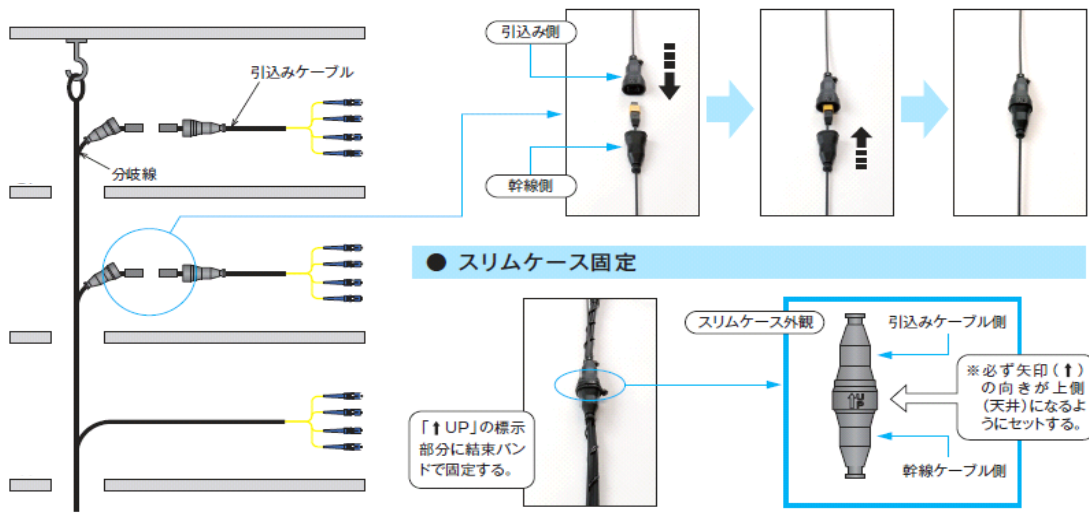
長寿命化関連技術 ②

■ 拡張性を考慮した情報系配線システムの開発

情報系技術は発展が目覚しく、近年では基幹幹線がメタル配線から光ケーブルへ移行が進んでいます。そこで、共用部の情報配線全てを光ケーブル化することで低損失・高速大容量伝送を実現し、かつ有効に先行配線ができる『光ケーブルによる各戸完結型スター配線システム』を開発しました。特徴としてはケーブルの工場加工率を高め、現場施工をコネクタ接続のみにしました。これにより品質の均一化、性能の安定性の確保が期待できます。

また、光ケーブルを各戸4本の仕様とすることで情報系サービスの選択肢が広がり、内容変更を各戸単位で行うことが可能です。

光ケーブルの応用分野は更に拡大が期待され、拡張性に優れ、システムが陳腐化することなく、新たなサービスに対応することが可能になります。



システムイメージ

■ キズ・汚れに強い内装材(リノ・シリーズ)の開発と拡充

当社では、独自の品質基準に適合した“キズや汚れが付きにくい内装建材”を「リノ・シリーズ」として定め、オリジナル商品の開発とメーカー商品からの採用を行っています。この度、これまで採用推進しているクロス、フローリングに加え和室木枠の開発を行いました。

「リノ・シリーズ」は、工事中のキズや汚れが減少するだけでなく、入居者にとっても日ごろの手入れや補修が楽で、いつまでも綺麗に長く使えます。今後は玄関(上がり框)や和室畳などに適用を広げ、より快適な住まいづくりに努めます。



和室木枠の環境試験

環境向上関連技術

■リビング空間の新提案「Loft-E」(ロフティエ)に対応する防振対策工法の確立 (室内音環境の向上に関する取り組み)

当社は、総合地所株式会社と共同で、集合住宅におけるリビング空間の新提案「Loft-E」(ロフティエ・特許出願中)を開発し、「ルネリバーズタワー東大島」に初採用しました。

コンセプトのひとつである「お子様が元気に愉しめる空間」の実現にあたり、ロフト上での床衝撃音の下階住戸への伝搬防止対策が必要でした。そこで、技術研究所で実験検証を行い有効な防振対策工法を確立し、斬新なロフト空間と室内音環境の両立が可能となりました。



Loft-E(実験用試験体)



環境配慮

■高層建物の風環境対策に関する取り組み(建設建物周辺環境への配慮)

高層建物の建設にあたっては、近隣周辺に「ビル風」が与える影響の検討が必要です。そこで、建物建設前後で風の流れや強さがどのように変化するかをコンピュータ シミュレーションで確認します。あわせて、模型を用いた風洞実験で実際の風を再現しての風速測定等を行います。得られたデータを設計部門にフィードバックすることで、建物近隣周辺への風環境を配慮した設計を可能としています。



風洞実験



環境配慮

■環境配慮型 建設作業所仮囲いの開発 (建設作業所の近隣への配慮に関する取り組み)

これまで建設作業所では、ロゴマーク入りLEDパネルの一部に太陽光発電・蓄電池がセットになったシステムの導入を進めてきました。

今回、作業所の仮囲いにこれらのシステムを組み込み、更に街灯等の照明設備も追加設置することにより、省CO₂活動のPRとともに、建設作業所周辺の夜間防犯対策として近隣への貢献も可能となる環境配慮型の建設作業所仮囲いの開発を行いました。

今後、導入を促進し、環境配慮・地域貢献に努めます。



環境配慮型 建設作業所仮囲い



CO₂削減

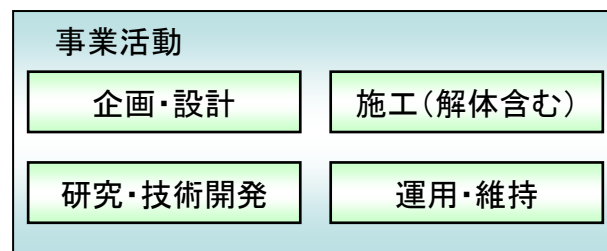
環境配慮

環境活動報告 - 7. マテリアルフロー

2009年度の当社の事業活動に関わる資源・エネルギーの投入量と、CO₂・廃棄物などの排出量を定量的にまとめたものを以下に示します。

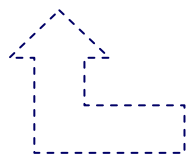
施工活動投入資源		施工活動投入エネルギー		オフィス活動投入資源・エネルギー	
【主要建設資材】		【グリーン調達資材】		【施工活動エネルギー】	
鉄筋	149千t	電炉鋼材(鉄筋)	149千t	電力	12,307千Kwh
鉄骨	5千t	高炉セメント生コン	241千m ³	軽油	10,163 KI
生コンクリート	1,146千m ³	ダンフスマ	40千枚	灯油	57 KI
		再生利用タイル	248千m ²		
		再生石膏ボード	3,311千m ²		
		パーティクル材(二重床)	65千m ²		
		スチレン素材(壁下地パッキン)	192m ³		
				【オフィス活動】	
				電力	8,215千Kwh
				コピー用紙	20,732千枚
				水	33千m ³

投入



排出

【施工活動】		【オフィス活動】	
CO ₂ 排出量(新築工事)	31.1千t-CO ₂	CO ₂ 排出量	2.9千t-CO ₂
アスベスト処理量	29t	一般廃棄物	154.5t
フロン・ハロン回収量	0.3t	排水	30千m ³
建設廃棄物	291.2千t		



再生利用量(汚泥除く)
158.5千t

最終処分量
132.7千t

環境活動報告 — 8. 環境会計

当社は、環境保全活動を定量的に把握し効率的に推進していく為に、2004年度より環境会計を導入しています。

基本的事項

■ 集計範囲

株式会社 長谷エコーポレーションの活動

①完成工事87作業所(新築:66、解体:21) ②オフィス(東京芝本社ビル、大阪平野町ビル)

■ 対象期間

2009年4月1日～2010年3月31日

■ 集計方法

「環境会計ガイドライン2005年版」(環境省)、「建設業における環境会計ガイドライン2002年版」(建設業3団体)を参考に、以下の項目について集計しました。

(1) 事業エリア内コスト

- 1) 公害防止コスト : 大気汚染、水質汚濁、騒音・振動防止対策等の費用を集計しました。
- 2) 地球環境保全コスト: 温暖化防止、省エネ、オゾン層破壊防止対策等の費用を集計しました。
- 3) 資源循環コスト : 廃棄物の分別・リサイクル、適正処理等の費用を集計しました。

(2) 上・下流コスト

環境配慮設計提案に要した人件費を集計しました。

(3) 管理活動コスト

環境保全管理活動費及びISO14001:2004運用・維持費を集計しました。

(4) 研究開発コスト

環境保全に関連する研究・技術開発費を集計しました。

(5) 社会活動コスト

環境関連団体・地域への寄付、支援等の費用を集計しました。

(6) 環境損傷コスト

周辺環境補修費及びマニフェスト伝票購入費(基金分)を集計しました。

環境保全コスト

分類	主な活動内容	費用額(百万円)				
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
事業エリア内コスト		3,368	3,636	4,254	3,179	2,067
①公害防止コスト	作業所での公害防止対策費	220	278	385	233	153
②地球環境保全コスト	アイドリングストップ活動費、フロンガス適正処理費	6	12	36	10	3
③資源循環コスト	建設廃棄物の分別・リサイクル、適正処理費	3,142	3,346	3,833	2,936	1,911
上・下流コスト	環境配慮設計人件費	6	10	12	8	4.5
管理活動コスト	ISO14001 登録・審査・運用費 ISO14001 活動人件費 環境負荷監視測定費 環境関連教育費	258	250	330	228	195
研究開発コスト	環境関連技術の研究・技術開発費	86	144	91	113	146
社会活動コスト	環境関連団体・地域への寄付金	1	0.1	0.4	9	1.5
環境損傷コスト	周辺環境補修費 マニフェスト伝票購入費(基金分)	137	108	97	87	52
環境保全コスト総額		3,856	4,148	4,784	3,624	2,466

環境保全効果

項目		単位	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	
事業エリア内の効果	施工活動	建設廃棄物排出量	千t	401.9	404.3	515.6	407.3	291.2
		建設廃棄物再生利用量(汚泥除く)	千t	297.6	215.0	289.9	246.9	158.5
		建設廃棄物最終処分量	千t	104.3	189.3	225.7	160.4	132.7
		CO ₂ 排出量(新築工事)	千t-CO ₂	(48.3)	50.4	45.8	42.0	31.1
		CO ₂ 原単位(新築工事)	t-CO ₂ /億円	(13.42)	11.40	9.33	12.03	14.49
	オフィス活動	電力使用量	千kwh	8,871	8,751	8,603	8,433	8,215
		コピー用紙使用量	万枚	2,127	2,283	2,370	2,198	2,073
		CO ₂ 排出量	t-CO ₂	3,538	3,469	3,143	2,992	2,884
		一般廃棄物排出量	t	165.8	188.3	193.0	177.9	154.5
上・下流の効果	グリーン調達	電炉鋼材(鉄筋)	千t	224	259	260	160	149
		高炉セメント生コン	千m ³	458	380	346	249	241
		ダンフスマ	千枚	73	117	112	71	40
		再生利用タイル	千m ²	707	664	678	460	248
		再生石膏ボード	千m ²	5,348	5,775	5,348	3,788	3,311
		パーティクル材(二重床)	千m ²	-	105	101	143	65
		スチレン素材(壁下地パッキン)	m ³	-	-	-	172	192
		文房具グリーン購入率	%	63.4	67.7	69.5	65.3	74.5

※事業エリア内の効果(施工活動): CO₂排出量は、2006年度より建設3団体『2008年度CO₂排出量調査マニュアル2008年6月』に準じて算定しています。

※上・下流の効果、グリーン調達: パーチクル材(二重床)は2006年度より、及びスチレン素材(壁下地パッキン)は、2008年度より算出しています。

■集計の結果

- ・2009年度に支出した環境保全コストの総額は、2,466百万円でした。2008年度と比較して、1,158百万円(32.0%)減少しました。
- ・環境保全コストの83.8%が「事業エリア内コスト」で、そのうちの92.5%を「資源循環コスト」が占めました。
資源循環コストは2008年度と比較して1,025百万円(34.9%)減少しました。
- ・建設廃棄物排出量は、2008年度と比較して116.1千t(28.5%)減少しました。
- ・建設廃棄物再生利用量(汚泥除く)は、2008年度と比較して88.4千t(35.8%)減少しました。
- ・施工活動のCO₂排出量(新築工事)は、31.1千t-CO₂でした。2008年度と比較して10.9千t-CO₂(26.0%)減少しました。
原単位での比較では、2008年度12.03t-CO₂/億円に対して14.49t-CO₂/億円で2.46t-CO₂/億円(20.4%)増加しました。
- ・オフィス活動によるコピー用紙使用量は、2,073万枚でした。2008年度と比較して125万枚(5.7%)減少しました。
- ・オフィス活動のCO₂排出量は、2,884t-CO₂でした。2008年度と比較して108t-CO₂(3.6%)削減しました。

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

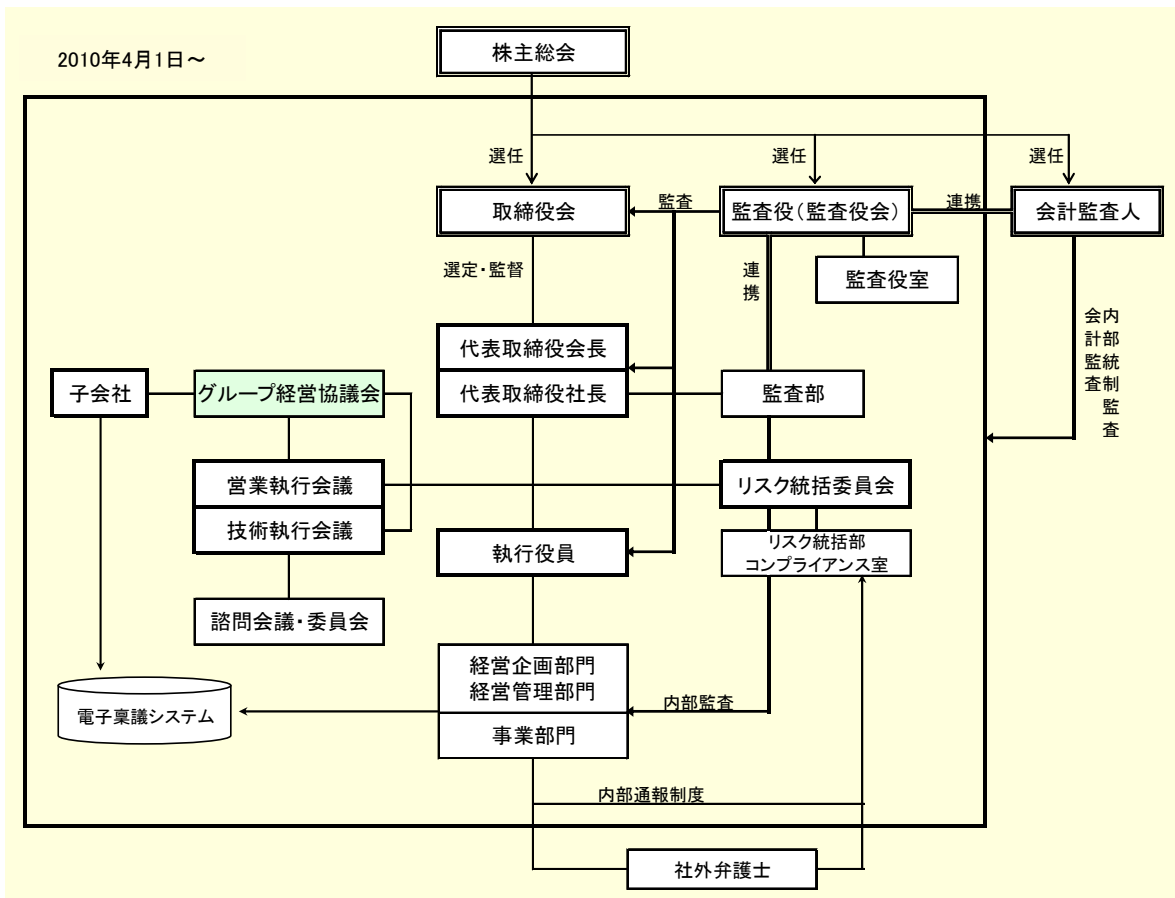
当社は、お客様本位の事業活動を通じて社会に貢献し、信頼を得ることを経営の基本方針としています。また、長期安定的に企業価値を最大化し株主の皆様の利益を確保するためには、経営における透明性と客観性の確保は不可欠であることから、コーポレート・ガバナンスの強化を経営の最重要課題の一つと位置付けています。

会社の機関の基本説明

当社は、会社の機関として監査役制度を採用しています。当社の取締役会は、各事業部門における専門的知識と経験を備えた取締役が、経営の意思決定と他の取締役の職務執行の監督を行い、経営の監視機能の面は、外部からの客観的、中立の経営監視の機能として、過半数の社外監査役を含む監査役会による監査を実施する体制を整備しています。これは、当社グループはマンション事業に必要とされるすべての機能(土地情報の収集から企画・設計、施工、販売、管理、リフォーム、仲介、賃貸)を有し、その機能に裏付けされた事業提案力・推進力(=プロジェクトマネジメント力)をコア・コンピタンスとした他社に類をみないビジネスモデルを構築しており、専門的知識と経験を備えた取締役による取締役会の運営が適切と考えているからです。

また、取締役から授権された一定事項の意思決定については、取締役の参加を一定限度にとどめた営業執行会議及び技術執行会議の各執行会議で行うことで、意思決定とそれらを監督する機能の役割を分け、各取締役が他の取締役の職務執行の監督を行える体制をとっています。更に、重要な取締役会決議事項についての事前審議機能については、2つの業務執行会議での事前審議の他、社長のもと開催されるグループ経営協議会(2010年4月1日より経営協議会を名称変更)を設置して行っています。

会社の機関・内部統制の関係図



会社の機関の内容

- ①取締役会は、毎月1回の定期開催に加えて、必要に応じて臨時での開催を行うこととしており、経営に関する重要な意思決定及び定例報告の他、定期的に執行役員より業務執行報告が行われています。
- ②取締役会から授権された範囲で日々の業務執行事項に関する意思決定を機動的に行うため、2つの業務執行会議「営業執行会議」「技術執行会議」を設置しています。その際、取締役の各業務執行会議への参加は一定限度にとどめることで、意思決定とそれらを監督する機能の役割を分け、責任と権限の明確化を図っています。なお、重要な取締役会決議事項についての事前審議機能については、2つの業務執行会議での事前審議の他、社長のもと開催されるグループ経営協議会(2010年4月1日より経営協議会を名称変更)を設置して行っています。
- ③リスク統括委員会は、社長を委員長として四半期に1回の開催に加えて、重大リスク発生時には必要に応じて臨時で開催することとしており、リスク管理に関する社内規程やリスク予防計画等の策定及び改廃について検討、決定するほか、リスク管理に関する推進方針及び具体策等の討議決定が行われています。

コンプライアンス及びリスク管理体制

当社は、適正な業務執行のための体制を整備・運用していくことが経営の重要な責務であるとの認識のもと内部統制システムを構築しています。

コンプライアンス体制

- ①当社は、企業の存立と継続のためにはコンプライアンスの徹底が必要不可欠であるとの認識のもと、2003年4月に「長谷エグループ行動規範」を制定し、全ての取締役、執行役員及び使用人が法令・定款の遵守はもとより、社会規範を尊重し、社会人としての良識と責任をもって行動するべく社会から信頼される経営体制の確立に努めています。また、コンプライアンスの向上にむけコンプライアンス室を設置し、コンプライアンスに関する社内規程に従い、コンプライアンスの推進・教育を行うとともに、コンプライアンスに関する相談や法令違反行為等の通報のために内部通報制度を設け、社外を含めた窓口を設置しています。
- ②当社は、2005年4月より社長直轄の監査部を設置し、内部監査に関する社内規程に従い各部門における諸活動が法令、定款、会社の規程・方針等に適合し、妥当であるものかどうかを検討・評価し、その結果に基づき改善を行っています。
- ③当社は、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは一切関係を持たず、これらの反社会的勢力及び団体に対しては、毅然とした態度で組織的に対応します。

コンプライアンス及びリスク管理体制

リスク管理体制

- ①当社は、様々なリスクに対して、リスク関連情報の収集に努め、リスクの大小や発生可能性に応じて、リスク発生の未然防止策や事前に適切な対応策を準備することにより、損失の発生を最小限にするべく、2006年4月に設置したリスク統括部を中心に組織的な対応に取り組んでいます。
- ②具体的には、経営企画部門及び経営管理部門の各セクションが連携をとりながら職務の役割に応じて業務執行状況をチェックする体制とし、更に、監査部によるチェック体制を整えています。業務執行の意思決定の記録となる稟議制度においては、2002年4月より決定手続きを電子化する電子稟議システムを導入し、監査役及び経営企画部門並びに経営管理部門がその内容を常時閲覧、チェックできる体制を構築しています。
- ③また、取締役会・2つの業務執行会議「営業執行会議」「技術執行会議」へ付議される案件のうち多数の部署が関わる案件、専門性の高い案件については、諮問会議・委員会を設けることで、事前の検証を十分に行うとともに、モニタリングが必要なものについては定期的な報告を義務付けています。
- ④加えて、当社及びグループ全体のリスク管理体制の強化を目的として、2006年5月に社長を委員長とするリスク統括委員会を設置し、リスク管理に関する社内規程に基づき、リスクの横断的な収集、分析、評価、対応を行っていく体制を整備しました。

公益通報・コンプライアンス相談窓口の設置

当社では、コンプライアンス全般に関する社員からの通報・相談を受け付ける相談窓口を、リスク統括部・コンプライアンス室に設置し運用しています。また、公益通報者保護法に則り、通報者の保護体制の構築と法令違反行為等に関する通報・相談を受け付ける窓口を、リスク統括部・コンプライアンス室及び社外窓口として法律事務所に設置し運用しています。

コンプライアンスの推進

当社では、誠実かつ社会に貢献する企業活動を展開していく為に、『長谷エグループ行動規範』を制定し、役職員の基本的な行動の規範を定めています。本規範の浸透を図るために、全社員に対して、『コンプライアンス規程集』『コンプライアンスブック』を配付しています。また、社内イントラによるコンプライアンス推進に関する定期的な情報発信を行っています。

個人情報保護

当社は個人情報保護の重要性を認識し、その取扱いに関する方針として個人情報保護方針（プライバシーポリシー）を定めています。その上で、社内における個人情報保護の責任体制を明確化するために個人情報保護管理者の設置を行うとともに、個人情報保護に関する社内規程を整備し、これを遵守するよう従業員への教育啓蒙を実施しています。

また、個人情報の紛失・漏洩を防止するため、管理の徹底及び各種セキュリティー対策を実施しています。これら一連の個人情報保護が確実に実施されていることを検証するために定期的に内部監査を行っており、必要に応じて是正を図っています。

施工現場でのコミュニケーション



■ 母と子の現場見学会

長谷エグループ労働組合は、組合員とその家族向けの「母と子の現場見学会」を、当社施工の工事現場「YOKOHAMA ALL PARKS(横浜市鶴見区)」で2009年6月に行いました。家族にどのような所でどんな仕事をしているのか、また子供たちにもものづくりの楽しさを肌で感じてもらうことが目的です。当日は21組72名の家族が参加し、現場見学やタイル張りなどの施工体験を行いました。



■ 現場仮囲い「お絵かき会」の実施

当社が施工した「ローレルコート津田沼(船橋市前原西)」の仮囲いに、現場周辺に住んでいる幼稚園児や、マンション購入希望者の子供たちが絵を描く「お絵かき会」を、2009年9月に行いました。子供18名、大人13名が参加し、近隣住民とのコミュニケーションツールとして活用されました。



■ 保育園児現場一周ツアーの実施

当社が施工する「UR豊四季台(建替)第一期後工区(柏市豊四季台)」現場周辺の豊四季台保育園の園児を対象として、2009年12月に現場一周ツアーを行いました。日ごろの感謝の気持ちを込めて、将来を担う子供たちにもものづくりの現場を知ってもらうことを目的としたものです。保育園児120名、先生2名が参加し、当日の様子を描いた絵を仮囲いに掲示しました。



入居者とのコミュニケーション



■「マンション打ち水大作戦」の実施

長谷エココミュニティ、長谷エニッケンコミュニティ※、長谷エスマイルコミュニティ、長谷エココミュニティ九州、長谷エコーポレーションは、2009年7月23日～8月23日まで、「マンション打ち水大作戦2009」を実施しました。これは長谷エグループが管理を受託しているマンションの居住者による、豊かなコミュニティ創造を支援することを目的としたものです。

期間中、421物件・31,477世帯が参加し、お風呂やシャワーの残り水など、身のまわりの水を二次利用して、地球にやさしい打ち水を行いました。



※長谷エニッケンコミュニティは、2010年4月1日付で長谷エスマイルコミュニティと合併しました。

学生とのコミュニケーション



■ギネス世界記録への挑戦

長谷エコーポレーションは2009年12月に、新卒者の就職活動を支援する「住宅・不動産・建設業界セミナー」を東京・大阪で開催しました。今回のセミナーのキーワードである「チャレンジ(挑戦)」にちなみ、自身を大きく成長させる機会である就活に挑む学生が、就活への決意・目標をバンダナに記し、これらを結んで世界一長いバンダナの輪(約1,200人分のバンダナ、長さ約1,480m)を作るギネス世界記録に挑戦し、達成しました。



社会貢献



■ペットボトルキャップの回収運動

ペットボトルのキャップ回収は、資源リサイクルとともにキャップの売却益で世界の子供たちにワクチンを届け、命を救う活動です。長谷エコーポレーションは2008年からこの活動に参加しています。2009年度は社内から約26万個(ワクチン324人分)を回収しました。

また2009年10月より、長谷エココミュニティ、長谷エニッケンコミュニティ※、長谷エスマイルコミュニティ、長谷エココミュニティ九州は、管理を受託しているマンションの居住者を対象に「エコキャップ回収大作戦」を開始しました。2010年3月末までに約1,359万個(ワクチン16,988人分)を回収しました。

※長谷エニッケンコミュニティは、2010年4月1日付で長谷エスマイルコミュニティと合併しました。



■中学生企業訪問活動の受け入れ

芝本社ビルで、子供たちに夢や進路、職業について考える機会を与え、未来設計の一助となるための企業訪問学習の受け入れを2009年11月12日に行いました。当日は、茨城県つくば市の中学生6名が来社し、マンションの施工方法や構造、分譲マンションの所有の仕組みなどについて理解してもらいました。



■「やめよう歩行喫煙キャンペーン」に参加

港区主催の歩行喫煙防止キャンペーンに2009年8月18日と2010年2月16日の2回参加しました。キャンペーンは、芝本社ビルのある芝地区で、通行人への歩行喫煙防止の呼び掛けと吸殻等のごみ拾いを行いました。



■プルトップ収集運動

社会貢献活動の一環として建設作業所も含め、プルトップの収集運動を行っています。プルトップ800kg(ドラム缶9本分)で車椅子1台と交換できます。2009年度は、128kg(累計419kg)をボランティア団体の環公害防止連絡協議会関西支部に送りました。(※この取り組みは、長谷エグループ労働組合も協力しています)

■献血に協力

東阪の安全衛生委員会主催で、社会貢献活動の一環として東京地区は2009年7月28日と2010年2月2日、大阪地区は2009年8月27、28日と2010年3月4、5日に献血を実施し(検査機関:赤十字血液センター)、442名の社員が献血に協力しました。(※この取り組みは、長谷エグループ労働組合も協力しています。)

■「クリーンおおさか2009」に参加

昨年に続き、2009年11月6日に大阪市主催の一斉清掃活動「クリーンおおさか2009」に参加し、平野町ビル周辺の公開空地、道路を清掃しました。



■使用済切手・カード類の寄付

使用済み切手5.6Kg、使用済みカード類486枚を回収し、港区社会福祉協議会みなとボランティアセンターに寄付しました。(※この取り組みは、長谷エグループ労働組合も協力しています。)

■使用済携帯電話回収キャンペーンに協力

携帯電話端末は、様々な種類の金属が使われており、その回収リサイクルは、地球環境保護のために必要とされています。2009年7月から8月にかけて電気通信事業者等が主催する使用済携帯電話回収キャンペーンに協力し、233台回収しました。

外部表彰

2009年度の主な外部表彰等は以下の通りです。

日付	名称	主催	対象
2009.6.29	平成21年度 城東消防署長 感謝状 「地域の防災思想の普及」	城東消防署	総合東砂三丁目新築工事作業所
2009.7.1	平成21年度 大阪労働局長安全衛生表彰 「奨励賞(労働衛生)」	建設業労働災害防止協会 大阪府支部	(仮称)都島ⅡA棟新築工事作業所
2009.8.24	平成21年度 城東消防署長 感謝状 「地域の防災思想の普及」	城東消防署	野村不南砂一丁目A敷地 新築工事作業所
2009.9.9	平成21年度 芝消防署長 感謝状 「救急業務の推進」	芝消防署	長谷エコーポレーション
2009.9.10	平成21年度 創立45周年記念 全国建設業労働災害防止大会 「事業場優良賞」	建設業労働災害防止協会	常盤台カーデンソサエティー 新築工事作業所
2009.9.10	平成21年度 創立45周年記念 全国建設業労働災害防止大会 「事業場優良賞」	建設業労働災害防止協会	BELISTA東淀川大桐Ⅰ期 新築工事作業所
2009.9.10	平成21年度 創立45周年記念 全国建設業労働災害防止大会 「事業場優良賞」	建設業労働災害防止協会	ライオンズ西灘ステーションプラザ 新築工事
2009.10.1	2009年度 グッドデザイン賞	(財)日本産業デザイン振興会	The Kitahama
2009.10.6	平成21年度 千葉労働局 局長表彰 「奨励賞」	建設業労働災害防止協会千 葉県支部	(仮称)JV東習志野計画1号棟 新築工事作業所
2009.10.16	平成21年度 第8回屋上・壁面・特殊緑化 技術コンクール 屋上緑化部門「環境大臣賞」	(財)都市緑化技術開発機構	エンジニアリング事業部 深大寺レジデンス 武蔵野テラス
2009.10.16	平成21年度 第4回3R推進全国大会 循環型社会形成推進功労者等大臣表彰 「環境大臣賞」	環境省 環境省関東地方環境事務所 千葉市	長谷エコーポレーション
2009.10.16	平成21年度 第29回 緑の都市賞 緑の地域づくり部門 「国土交通大臣賞」	(財)都市緑化基金	グランドメゾン東戸塚
2009.11.12	平成21年度 武蔵野消防署長 感謝状 「秋の火災予防運動」	武蔵野消防署	JV吉祥寺東町新築工事作業所
2009.12.3	平成21年度 第13回ステンレス協会賞 「優秀賞」	ステンレス協会	ステンレス給水プレハブ配管工法 「サップス工法」
2010.1.21	平成21年度 第23回大阪市ハウジングデザイン賞	大阪市	The Kitahama
2010.2.16	平成21年度 第3回大阪サステナブル建築 賞「特別賞」	大阪府	グランドメゾン四條畷ゲートハウス
2010.2.16	平成21年度 第3回おおさか優良緑化賞 「選考委員会奨励賞」	大阪府	BELISTA弁天町

環境・社会貢献関連掲載記事

2009年度の環境・社会貢献関連記事掲載内容は以下の通りです。

日付	内 容	掲 載 紙
2009.4	マンション大規模修繕工事に着手 超高層マンションの大規模修繕工事を受注促進 「昇降式移動足場」を初採用し、 居住性や防犯性を確保 （※長谷エリフォームが行っています） 「ザ・ウィンベルグラン町田」 大規模修繕工事風景	産経新聞他 
2009.7	長谷工の「長期優良住宅」認定マンション『(仮称)浦和プロジェクト』・『(仮称)吹田市出口町プロジェクト』業界に先駆け7月に着工	日経産業新聞他
2009.7	マンション居住者と管理会社の共同によるコミュニケーションイベント『マンション打ち水大作戦2009』九州では初開催 いっせいで打ち水イベント「HASEKOおっしょい！夏祭り2009 in九州」に内藤大助とザブングルがやってくる！！	建設工業新聞他
2009.7	長谷工独自の「ALC乾式壁無溶接工法」を開発 長期優良住宅に適応した高い更新性と可変性を実現	日刊工業新聞他
2009.10	関西初！国土交通省 平成20年度第1回「長期優良住宅先導的モデル事業」採択・「長期優良住宅」認定マンション 長谷工「ブランシエラ吹田片山公園」新春2010年1月よりモデルルームオープン(予定)	建通新聞他
2009.10	財団法人 都市緑化技術開発機構主催 第8回屋上・壁面・特殊緑化技術コンクールにおいて 「深大寺レジデンス」が 屋上緑化部門 環境大臣賞を受賞しました 「深大寺レジデンス」	建設通信新聞他 
2009.10	長谷工の管理マンションでCO ₂ 削減・ワクテン提供キャンペーン『エコキャップ回収大作戦』一斉実施について ～目指せ回収800万個、世界の子供10,000人を救おう！～ （※長谷エココミュニティ、長谷エスマイルコミュニティ、長谷エココミュニティ九州が行っています）	朝日新聞他
2009.11	豊かな自然と共存した『グランドメゾン東戸塚』 第29回「緑の都市賞」国土交通大臣賞を受賞	建設工業新聞他
2009.11	生活や空間に影響を及ぼさない“住みながら耐震化”新耐震基準を満たさない既存マンションの長期耐用化対策を支援 長期優良住宅先導的モデル事業「既存住宅改修部門」に‘システム提案’で初採択 （※長谷エリフォームが行っています）	マンション管理新聞他
2009.11	屋上基礎の施工性向上・品質均一化を実現 雨仕舞い形成用の打ち込み型枠「S型枠」を開発・商品化	建設工業新聞他
2010.1	日本初！「長期優良住宅認定」マンション 「ブランシエラ浦和」販売開始について 「ブランシエラ浦和」完成予想図	日本経済新聞他 
2010.1	関西初！「長期優良住宅認定」マンション 「ブランシエラ吹田片山公園」販売開始について 「ブランシエラ吹田片山公園」完成予想図	日本経済新聞他 
2010.1	都内発の大規模太陽熱パネルを設置した環境配慮型分譲マンション 「ザ・レジデンス千歳船橋」概要決定	日経産業新聞他
2010.2	屋上防水層への雨水浸入を防ぐアルミ製笠木を開発・商品化 工業化により品質の均一化・施工性の向上を実現	建設工業新聞他